

## 菊川市の子育て政策を考える

倉部 光世 (市民ネット)

子育て支援をより充実したものにするため子ども未来部が設置された。

Q とも未来部開設後の利用者の反応は。

A 4月の利用者アンケートでは約8割の方が高評価であった。

Q 10月からの幼児教育・保育の無償化の影響、今後の待機児童対策は。

A 1号から2号認定への変更希望増が予想されるため、定員の拡充、保育士の確保等の対策が必要となる。小規模保育事業の連携施設の充実を図る。

Q 出産前に子育てと働き方の未来イメージを提供するなど、保育利用の当事者側に立った対策の検討は。

A 家庭状況や就労時間等に照らし、必要なサービスが選択できるようにし、出産前も含め周知する。

Q 現在どのような方法で虐待、貧困家庭の把握をしているか。

A 通報、相談による把握、要保護児童対策地域協議会を設置し、情報共有をしている。



Q 「子どもの貧困早期発見対応ガイド」等の活用や貧困調査のアンケートの実施は。

A アンケート調査やガイドの作成、計画の策定は国の動向等を注視する中検討する。

Q 就学援助費の新入学児童生徒学用品費は入学前に支給すべきではないか。

A 今年度中に市の制度改正を行い、来年度の新入学児童生徒学用品費の入学前支給を進めていく。

他に「教職員の働き方改革の現状と課題」について質問しました。



なかうちだのぞみ保育園  
(小規模保育事業)

## 財政と駅北整備事業を問う

織部 光男 (無所属)

Q 菊川市の標準財政規模は110億ですが、市長は、293億の市債(市の借金)を減額していくつもりなのか。

A 各会計における償還計画に基づき償還を進めていく。

Q 弾力性の指数、経常収支比率が29年度は89.5%であった。硬化化である。市民の皆様にとっては何者ではないか。

A 経常的な支出が増加したという面もあり、時代的な背景や市の施策状況も考慮した上で判断すべきものである。

Q 駅南に160億かけた行政の評価は。

A 交通・防災等基盤整備は終了したが、にぎわいという意味では効果が出ていない。

Q なぜ駅北整備事業をやるのか。

A 利便性の向上により定住人口の増加や、地域経済活動の活性化により税収が上がる。

Q 人口ボーナス期(1960~1995年)働く人は多く、老人は少なく経済は伸びた。現在の人

口オナーナス期は(負担・負荷の意味)今後医療費は1.5倍、介護費2倍になる時代に交付金を使い10年で返していく時代ではないが市長の考えは。

A 今後の発展と人口減少対策のためにも重要な事業である。

Q 5月30日始発から12時まで乗る方を調査した。2199名、市民の4.5%。駅北から歩いてみた。両ルート共、約10分で改札口に着く。利益相反は。

A JRから事業費が出れば、またご説明する。

Q 匿名の市民は「橋上駅は画一的でつまらない。レールの跨線橋が良い。」というが。

A 20年、30年後を考えている。

